

銀の皿

「ペンテコステ」

説教の時、とある先生がボールペンを右手に取り、そこからおもむろに前に差し出した左手の内側にペンをのせ、前後にこすりだしたそうです。勘の鋭い方はお分かりかもしませんが、そこで先生は「これが、ペンでこすってです！」と言ったそうです。ダジャレのお話はこれくらいにして、ペンテコステとはギリシャ語で 50 番目という意味があります。そしてイスラエルの民が穀物の収穫を神の恵として感謝しある祝いする日でもありました。春先に収穫された大麦の束が祭司によって神の御前に捧げられ、その 50 日目に全ての民は労働を止め、聖なる会合を行っていました。（レビ 23：21）

ペンテコステは別名、収穫の祭り、五旬節とも呼ばれています。この五旬節の日も、この時期に収穫された小麦で焼いた 2 つのパンと和解のいけにえが祭司によって捧げられていました。これは諸説分かれるそうですが、この 2 つのパンとはイスラエルの民族と異邦人であるという説があります。エペソ 2:14-15 にはこのように書かれています。キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、2:15 ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまざまの規定から成り立っている戒めの律法なのです。聖書を通じ、はつきりしていることは私達はイエスキリストの恵みにより、神を礼拝する民にされたという事です。そして私達が出来ることは神の御前に出て共に主を礼拝することです。愛と赦しと祈りを携えて。約二千年前のペンテコステの日に弟子たちの上に聖霊が注がれました。そして今、この日は聖霊降臨祭として全世界のクリスチヤンの間で祝われています。私達は聖霊によって神の実りを得た者です。そしてその恵みがさらに拡大することを世界中のクリスチヤンと共に願っています。私達は弱い者ですが、キリストによる愛と恵をいただいて新たにされ、さらに福音のために前進する者となりましょう。

